

正しい議論の仕方を広めるには

占部浩一 (ヴェリタス基礎科学研究所)

e-mail: urabe@gakushikai.jp

目的

正しい議論により無駄な時間、精力が不要になり、重要な点に議論が集中できる。

しかし、ただ、データに基づいて正しい論理で議論を、と言ってみても、当たり前すぎて説得力がない。ああ、そう、と聞き流され、間違っただ議論が修正されない公算が大である。

具体的な議論を取り上げて、ここが間違っている、こう直すべきだ、というように指摘しないと実効性が期待できない。いわば評論家的な仕事をする必要がある。しかし、評論家的な発言を各分野で行うのは大変なので、正しい議論ができるように評論家たちを鍛えるのが有効かもしれない。

いずれにしても、自分の発言に耳を傾けさせるにはどうしたらいいのか、ということが問題である。当人にメールや手紙を送る、ブログで発信する、新聞雑誌に投稿する、本を書く、何らかの方法で知名度を上げインタビューに来てもらう、講座を開く、等が考えられるが、いろいろご意見を伺いたい。

前回資料の補足

・過去の事例の判断

歴史的な事件における人々の行動の善悪、正否を現在の基準で判断することはできるが、その行動の当時における評価は当時の価値観が基になる。例：・弱小国の植民地化は20世紀半ばまで正当なものとして見られていた。 ・夫が家事を手伝うのは、数十年前には当然とは思われていなかった。

・自由意志の尊重

限定された選択肢からの選択を自由にさせて、自由意志を尊重したと表現することがある。金を出さなければ殺すが、どちらを選ぶかと迫って金を奪い取っても、相手が自分でそれを選んだのだから、自由意志による決定だと言えなくもない。ただ、相手に不利益な選択肢しか与えず、強権的に選択を迫るといって正義に反するものという判定にはなるが。選択肢は、社会通念、その場の空気、洗脳、などにより限定される。例：・沖縄戦での民間人の自決は、直接的には軍に強制されたものでなかったとしても、軍、政治家の主張がマスコミ、教育などにより刷り込まれてできた空気（社会通念による選択肢の限定）が影響したと思われる。

・議論の主題の把握

提示された問題の主題を把握してそれを論じるのが大切である。枝葉のような部分をとりあげてついでに本題の深化にはつながらない。例：・橋下徹の慰安婦発言は、主題としては各国が同じようなことをしていて、なぜ日本だけが叩かれるのか、というところと思われるが、女性蔑視、現在の世界常識の無視というところに話がすり替えられ、韓国が一方的に日本を悪者にして、いつまでも賠償を請求したり、アメリカに食い込んだりしている、という事実はどう対処するかという問題が論じられることがなかったようである。本題を論じたあとで、女性蔑視などの欠点の指摘をするのはいいのだが、本題そっちのけで始めから脇道にそれてはまともな議論ができない。

いくつかの問題

・原発

原発を続けること、輸出すること、などを論じるには、メリット、デメリットを明確に表示しないとまともな議論ができない。

原発については、メリットとして、エネルギーの安全保証（海外情勢の影響を受けにくい）、将来のこと（廃炉、放射性廃棄物の処理、等）を考えなければ電気料金が比較的安価、潜在的核戦力の保有に有利、などがある。デメリットとしては、事故時の危険の甚大性、テロを含めた事故防止の困難性、放射性廃棄物の処理の困難性、廃炉までのトータルに見た場合の費用の高額さ、などがある。さらに原発を廃止した場合の電力供給能力、需要の削減可能性、代替発電の量と価格の進展予測、電気料金が上がった時の企業の救済の必要性、…、も必要な情報である。

これらは個人が調べるには荷が重すぎるので、専門家（集団）がデータを公正にまとめて公表し、それを基に議論すべきものである。